

軍艦巻

成人向
for adult

1.0

presented by

マキ帝国



『おおおつ……出るぞお!』

「んぐつ!?……んつ……くつ……」

『ほほつ、そうだ一滴もこぼすんじゃないぞ。17駆逐隊の娘たちの処遇は君の態度次第だからね』

どろろ

どろろ

どろろ

どろろ

どろろ

どろろ

どろろ

「あふつ……わかっていきます。私の身体を汚したいならば好きにすればいい……」

『く……つ、その反抗的な目が堪らんなあ!その余裕がどこまで持つのか楽しみだのう』

「……っ!?!」



「……かはっ!? く、くるしっ……」

「これよ、これえ! 生意気な女は首を絞めながらがつしがつしハメるに限るわ!」

「やめっ……や、め……おえっ……」

「ほほっ……殺しはしないから安心しなさい。君は大事な繁殖用牝牛艦なんだからね!」

「な……なにをい……っへ……?」

「おおおおおおおっキタキタキタア……! 今新鮮なオス汁たつぷり射精してあげるから、しっかり孕むんだよ浜風くん!!」

「……っ??」



『ふうーっ、年甲斐もなくハッスルしすぎてしまったわい……』

「……ああ、っ……はひっ……」

『ハァハァすばらしかったよ浜風くん、……ミッ……君には私からあらためて任務を与えよう。』

『……という条件で17駆逐隊の無事を約束しよう、受け入れてくれるかね？』

「は……い……」

『そうかそうか！では誓いの言葉を言っ……てこらん♪』

『は……浜風は、一生、いつでも好きだな……ときになんっ……』

『……おじさまのおっ子種をお……腹内でうけとめて……あっ孕ませっ……ていただく……だけの専属牝牛になることを……いつ……誓ひます……』

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ



「ふふっ、そんなにながっつかなくとも私の胸は逃げないぞ♥」

『はあむ…じゅるっ！長門さん…長門さんのおっぱいおいしいです…』

「提督の気が済むまでしゃぶっているといい」こちらもそろそろ限界のようだな…」

（提督と言えどもまだ子どもか…）

母恋しさから求められるというのも悪い気はしないな

『あっ…あああっ！出ちやいまふ！
おちんちんから…んふっ…むううう!!』

「ふむ、勢い良く出たのは男らしいが、
男子たるもの情けない喘ぎ声など出すものではないぞ
そんな口は私の胸でふさいでやろう♥ふふふっ…」

ふー！

ふー！

ハッ！

ハッ！



「あひいっ!! て、提督うう、落ち着くの…っだああんっ!♡ひんっ♡♡はひいりん♡♡♡
『あははっ!! 長門さん、気持ちいいんだよね??
ぼくのおちんちんで気持ちよく
なっちゃってるんだよね!??』

「くう!! 感じて、感じてなどはない…
あっ…いな…いうひいううんん♡」

♡ひんっ♡♡はひいりん♡♡♡

ズン

ハッ

びん

びん

「ねえ!! ねえ長門さん!! 僕の、僕だけの長門さんになってくれる??」

「なにおお…い、言っへるんだああ♡
そんなことお…そんな素敵なことお♡」

『ほんと!?! じゃあ、誓って!!
僕のものになるって…さあッ!!!』

「はいいん♡長門は提督のお♡
提督専用のことも便器艦に
なりまじゅううう♡♡♡



『う……すう……』

「ふふっ、先ほどまで獣のように私を犯していたとは思えない可愛い寝顔だな……」

『んあ……んっ……長門さ……ん……』

「はは！あれだけやって、まだ夢精するほど余らせているとはな！」
（好きなだけ吐きだせばいいさ。もう私は提督の、あなただけの女なのだから……♡）



「はああ……っ♡」

『どうだい、夕張ちゃん新しい改装の具合は？』

「体の奥が熱くなって、すごく……ふわふわしてます……」

『ふふふっ、それは改装による一時的な気分の高揚さ』

「は、はい……！んっ……れえろ……じゅるっ……
（んんっ!?ただの唾液のはずなのにおいしい……）」

じわ♡

『ふふっ、これだけ出来上がっているなら
次の工程に進んでも問題ないかな？』

「……はい♡おじさま……♡♡♡」

『オラァ!!しっかり腰ひつつけねえと大事な精液が漏れちまうぞ!!』

「はひいいいい!!きた、キタあ♥おじさま精液キタああ♥♥子宮で、夕張の子宮でしっかり受け止めさせていただきましゅうううっ♥♥♥」

『くうっ、痛いくらいに膣に力込めやがって…チンポを逃がしやしねえ…!!』

ハハハ

ハハハ

キタ

キタ

キタ

「おじさまあ♥もっとお♥もっとおほしいんです♥♥おじさまの種付け重油で夕張をいっぱいにしてください♥♥♥」

『へへっ!薬のせいとはいえ、とんだ淫乱メロンちゃんだったわけだ…なっ!!』

「あひいいいい?きたあ♥♥♥イく、またイっっちゃうううう♥♥♥」



「司令官、これはどういうことかしら。不知火になにか落ち度でも？」

ぽんぽん

「っ!?」
(なにかがお尻に...)

「すぐにわかるって...」
ふざけてないで質問に答えて下さい」

んんん

んんん

「あの司令...」
これはどういうこひゃあん?」
(うそっ、スパッツの中に熱いのが入って...!?)

んんん

んんん

んんん

んんん

「ちよっ、嫌です、そんなところすつては…ひっ!?
なに、このドロツとした…」

「司令、いい加減にしないと…っ!?」
（うそ、そんな…スパッツがやぶ…
痛、痛い! 私の膣内に熱いのが…は、入って…）

数時間後

「…ああっ♥んっ…はっ、はあ…っん♥♥」
（ああ…膣内で熱いのが…これで何…回目かしら…）

「ご、ごめんなさい! 司令…
不知火は…悪い娘です! だからもう許して…下さい…」

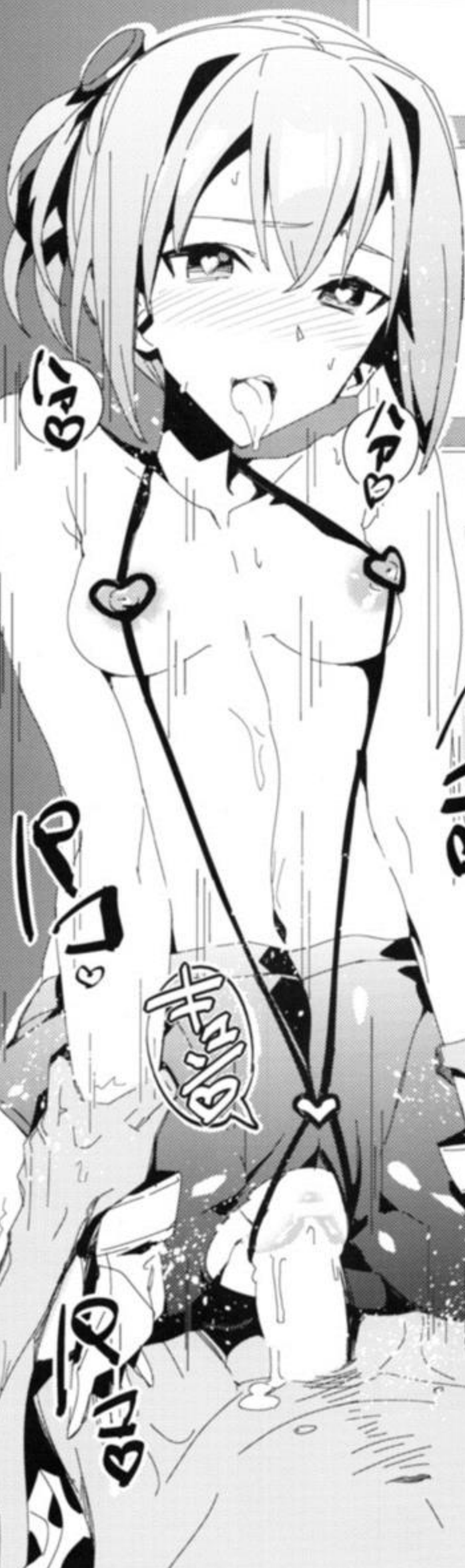
（こんな仕打ちをして…
不知火を本気で怒らせたわね…
絶対に許さない…!!）



〜数日後〜



「うふふ。今宵の接待係を努めます、不知火です。提督直々の特別演習を経て、殿方を満足させるために訓練された女性処理スパッツ奴隷駆逐艦です♡ご指導ご鞭撻、よろしくです、大臣のおじいさま♡」



「はああつん♡現役パツキバキの老人ちんぽに、老獪テクニクすこいすこいですう♡♡」
「ほらっ、不知火の子宮にびゅーって射精して♡おじいちゃん子種で不知火をマーキングしてください♡♡♡」

「くっ…整備にかこつけて

このような破廉恥な格好を私にさせるなど…

提督の風上にも置けん痴れ者め!!」

ふー！

ふー！

「ええい…!!見るな！
まじまじと見るんじゃない！貴様あ…!!」



「くっ、笑いたければ笑えばいいだろう！
こ、こんな駆逐艦の、サイズが合わない服を着せて喜ぶなど…貴様はどうかしている…」

「ばっ、ばば…馬鹿者!!か、かわいいなどとからかうんじやない!!」

もじ

もじ

きんぎょ

「人を弄んで平気な顔をして…私には貴様という人間が分からぬ!!」

「分からぬが、ただ…ただ…そんな貴様でもわた、私は…嫌いではない…」

「はっ…はあ…はああん!!こんなっ…
性交とはこんな乱暴にするものではあああんっ♡」

「貴様はあ…貴様は卑怯だあ!!」

「わたしが貴様に逆らえないと知っ
ていながら、このようなことをさせるなどお…♡」

あゝ♡

ほゝ♡

「きもちいい♡きもちよくてたまらいの
だあっ♡」

「き…貴様につ!!貴様に愛されてい
ると思うと、もう…もおダメなんだあ♡♡」

「はひっ♡はっ…ああ♡いくっ♡いっ…
いっ…いっ…いっ…いっ…♡♡♡♡♡」

ピュッ
イクッ
イクッ

ピュッ
イクッ
イクッ



「くっ、尻を打たれつつ、されるがまま、
獣のような格好で尻穴を激しく犯されるなど
なんたる屈じよ、ひゃああん♡♡」

「か、感じてなど…断じて感じてなど…いないぞお♡♡」

「こんな、まるで恋人のような♡
はむっ!あむっ!もっろ♡
もっろ舌、絡めてくれえ♡♡」

「さっ、きもちいいぞ♡もっろ突いてくれ♡」

「ああ♡射精てるっ♡私の膈内に貴様の子種がまた射精てえ♡♡」



「はひいやあ……？またあ……じゆる……こんなにくささん出して……♡」

「ほんとに、ほんとに、どうしようも……げぶっ……ない……おちんぼさまだな♡♡」

「でも、わたしは、わた……ヒックッ……」

「わたしは貴様のためならなんでもするぞ♡」

「だから、もっと……もおつと……」

「貴様の子種酒で私を酔わせてくれ♡♡」

「愛しているぞ、私のご主人様♡♡♡」

んんん♡

んんん♡

■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■

「いったいどういうことなのかしらこれは……」

『んふふっ、お嬢さん外人さんですね？ これは日本式の挨拶で痴漢というものですよ』
「こんなに破廉恥な挨拶が日本に……？」

『お嬢さんが知らないのも無理はない。これは本当に美しい女性にだけされる挨拶なんです』

「そ、そのなの……」
「Dankke。」

『いえいえ、まだまだこれは序の口です。手とり足とり教えて差し上げましょう……んふふっ』

「んふふっ」

「んふふっ」

続きません

★奥付

発行日 2014年12月30日

発行 マキ帝国

イラスト 巻
文 タンクスレイヤー=サン

Email mackee90@gmail.com

twitter [mckeeelog](https://twitter.com/mckeeelog)

印刷 有限会社ねこのしっぽ様

ありがとう
がぜいませ!!



軍艦卷

成人向
for adult

1.0

presented by

マキ帝国